

委員公募に関する意見一覧表

実現するためのテーマ・手法		
報酬の拡充 ①	応募方法をより簡便化 ②	適正な公募数を設定するための手法 ③
広く市民から応募してもらうための手法 ①②④⑤⑥⑧⑫	幅広い年代に応募してもらうための手法 ①④⑤⑥⑦⑧⑫	若い世代に応募してもらうための手法 ①②⑤⑥⑨⑩⑪
参加意欲がある人材の再参加の促進 ⑧	大学のゼミやサークルを通じての情報共有を図る ②⑥⑨⑩⑪	公募自体に興味を持ってもらう ①④⑤⑥⑨⑩⑪⑫⑬

※上記の該当するテーマに分類しています。

第2回会議の中で提案された意見の要旨

- ① 報償があることで効果が期待できるなら出す方向に、懇談会等で現状謝金が0の機関に対しては、謝金を出すように働きかけてはどうか。
- ② 公募チラシにQRコードを付けてそこからアクセスして直接応募できるようにすると、もっと気軽に応募ができるようになるのでは。
- ③ その公募に関係する対象者数を割り出すことで、公募ごとの適切な募集人数の目安となるのではないか。
- ④ チラシの配布場所について、現状に加えて公募のコーナーを分けるか、あるいは市役所のメインのチラシを置いている所に公募コーナーを設置したらよいのでは。
- ⑤ 公募委員全体を紹介するような公募啓発ポスターを作成し、本庁舎の目立つ場所に貼り付けるような検討をしたらどうか。
- ⑥ ポスターでなくても、紙媒体でその年の公募一覧表等を作成し、わかりやすい場所に配置しておくことで、前向きになった市民を参加させやすくなるのでは。
- ⑦ 公募可能な年齢は18歳からだが、高齢者も気軽に応募できるように年齢上限はないということをやって欲しい。
- ⑧ 1度選任された人も何年か経過したらまた次の公募に応募できることを分かりやすく表記すべきでは。
- ⑨ 大学とか専門学校に対して声かけしてみたらどうか。
- ⑩ 一枠でも『若い人枠』みたいなのがあれば、ある程度の強制力が生まれて若い人が参加しやすくなるのでは。
- ⑪ オブザーバーとして大学を通してある程度ゼミなどの、活動の一環としてやってもらうという方法はどうか。
- ⑫ 公募チラシにできるだけ人目を引くようなイラストやカラーを取り入れることで、まずは公募に対して興味を持ってもらうことが重要ではないだろうか。
- ⑬ 外局の部署等は、その職員がめばしい人に対して声かけする誘い方がよいかと思う。ほかのイベントで市民がやってきたときに、公募の案内をして“いかがですか？”というような。